

森のテクノ

NO. **101**
秋 号
2023.10.15



目次

- | | | | |
|---|---|--|----|
| ●持続可能な林業振興に向けて
高知県林業振興・環境部 部長 武藤 信之 | 1 | ●第23回 森や自然についての
子ども達の作文コンクール
審査委員長 高知新聞社 営業局長 伊藤 能一 | 10 |
| ●「南海地震に備える」－どうして地震は起きるのか－
高知大学名誉教授・高知大学防災推進センター 客員教授 岡村 真 | 2 | ●テクノ ア・ラ・カルト
－逍遙する「技術」2：建築構法と家具－
前 (一社)高知県山林協会 技術専門官 長澤 佳暁 | 17 |
| ●「安芸林業事務所での森林土木業務」
高知県安芸林業事務所 森林土木課 主幹 小路口 沙織 | 4 | ●「四国遍路」
(一社)高知県山林協会 伊野支所 主任 齒朶尾 慎二 | 19 |
| ●令和5年度 民有林森林土木優良工事コンクール・林道維持管理コンクール・
森林土木工事木材使用設計コンクールの審査にあたって
コンクール審査委員長
高知県林業振興・環境部 治山林道課長 松尾 文昭 | 6 | ●県立甫喜ヶ峰森林公園から
指定管理者 (一社)高知県山林協会 甫喜ヶ峰森林公園 主任 黒津 光世 | 21 |
| ●令和5年度(一社)高知県山林協会通常総会開催
(一社)高知県山林協会 常務理事 永野 俊彦 | 8 | ●動 向 | 23 |



持続可能な林業振興に向けて

高知県林業振興・環境部 部長 武藤 信之

読者の皆様におかれましては、高知県の森林・林業・木材産業行政の推進につきまして、格段のご協力をいただいておりますことに厚く御礼申し上げます。

本県は、第4期産業振興計画（計画期間：令和2年度～令和5年度）により「山で若者が働く、全国有数の国産材産地」を目指し、原木生産の拡大、木材産業のイノベーション、木材利用の拡大、及び担い手の育成・確保、の4つの戦略の柱により林業分野の施策を総合的に展開しております。

この第4期の計画期間はコロナウイルス感染症拡大と重なりました。初期は原木価格の低下にはじまり、その後、いわゆるウッドショックに伴う大きな価格変動等があり、国産材への期待が高まることとなりました。

こうしたなか、現場状況に留意しながら、国産材への期待にいかに対応していくかが重要となっており、例えば、県では、生産性の向上に向けて高性能林業機械の導入や作業道開設などに加え、本年4月から運用を開始した森林クラウドの活用や先端林業機械の実証を通じて林業現場の省力化や効率化を支援してきたところです。

また、林道事業におきましては、木材等の輸送や高性能林業機械を活用した効率的な原木生産を行うために必要な基盤整備として、林道整備促進協議会等を通じ地域のご意見等をお聞きしながら新規路線の採択に向けて取り組んでまいりました。その結果、林道については、林道整備促進協議会の立ち上げ以降の平成30年度から令和3年度の間、5路線の新規採択に至っております。

一方、治山事業におきましては、台風、前線に伴うゲリラ豪雨や線状降水帯の発生などによる災害リスクに対応することも重要となっていることから、災害復旧や治山施設の設置による事前防災、災害に強い森林づくりに努めているところです。

さて、産業振興計画ですが、本年度が第4期の最終年度となることから、これまでの取組を振り返りつつ、次期計画の検討を進めております。これまで関係会議に加え、地域において意見交換会も行い、取組の評価や課題などをお聞きしながら各般の施策を強化していくこととしております。

また、原木生産につきましては、森林資源の活用が進んだものの、皆伐後の再造林率は4割程度にとどまっております。伐って、使って、植えて、育てるという森林資源の循環利用が進んでいるとは言えない状況となっております。こうした課題につきましては、昨年度より再造林の促進に向けた議論を重ね、例えば、森林クラウドでのデジタル情報の活用等により、効率的に林業が行える林業適地において、再造林の推進に係る林業施策の集中と選択を図ることや、新たな技術の活用を進めるなどにより林業収支のプラス転換につながる施策を展開することなどを盛り込んだ再造林推進プランとして取りまとめました。

今後、各般の計画等により持続可能な林業振興に向けた取組を更に進めてまいりますので、関係の皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

「南海地震に備える」－どうして地震は起きるのか－

高知大学名誉教授・高知大学防災推進センター 客員教授 岡村 眞

過去の南海地震の揺れ

南海地震の揺れはどれくらいになるのでしょうか？次の南海地震を予測する基礎資料は、過去の南海地震の古文書にあります。そこで、まずは過去の南海地震の揺れについてみてみましょう。

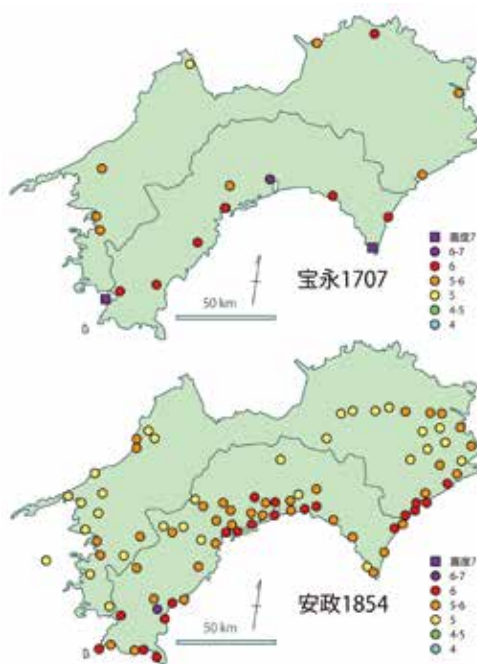


図1 高知県とその周辺における宝永南海地震（M8.6）と安政南海地震（M8.4）の震度分布（宇佐美、1987 および 1989）

宝永の地震では現在の室戸市室津と宿毛市大島で震度7、高知市街地で震度6から7、その他の沿岸沿いの地域で震度6となっています。安政の地震では中村で震度6から7、それ以外の沿岸部の地域で震度5以上となっています。

さらに地震の揺れについて、考えておくべき重要な視点があります。それは地震の揺れを増幅させる地盤の問題です。昭和南海地震の際には全国的には津波の被害が大きく、西日本を中心に死者1,330人を数えます。このうち、約半数の679人

が高知県内の死者数です。特に旧中村町だけで、その約半数 291 人とされ、全国の死者の2割強を占めています。同じく地盤の悪い高知市に比べて、それを上回る死者の出た原因は、高知市中心部が空襲のため焼け野原になっていたこと。他方、中村は「小京都」と呼ばれるように古い町並みが保存されていたことも家屋倒壊の多さの一因に挙げられます。南海地震後の写真を見ると、地盤の良い一条神社周辺の街並みは残されており、それ以外の地域で倒壊家屋の多さが目につきます。揺れが大きくなったもう一つの要因は、中村が高知市に比べて震源が浅いことが考えられます。フィリピン海プレートは四国の下に、北に傾いて沈み込んでおり、震源までの深さは高知市の約28kmに比べて中村は約18kmと浅くなっています。強い横揺れと震源の浅い地震の特徴である強い縦揺れを伴ったことで被害を拡大させた可能性があります。このことは近い将来発生する南海トラフ地震にも同様に当てはまります。

災害の発生を拡大する主な要因である昭和南海地震後の街づくりにおいて、高知市の播磨屋橋より東は大津に至るまで厚い超軟弱地盤地帯（深さ30メートルから、一部深さ80メートルまで）が広がっており、ここで戦後拡大する人口増加を受け入れてきた経緯があります。この傾向は、98豪雨の経験と人口減少の要因などから一時的に開発が止まりましたが、この地域は地震に伴う災害の拡大要因（軟弱地盤で増幅された震度7の揺れ、地震後の広域地盤沈下、津波の来襲と津波火災発生への恐れ）を背負ったままで、近々発生する南海

トラフの巨大地震発生を迎えようとしています。ちなみに 30 メートルの軟弱地盤があれば、地震の揺れは硬い地盤に比べて約 2.65 倍に揺れが増幅することがわかってきました。震度 7 の最大震度になるのは地震発生要因よりも「地盤の弱さ」で決定されているのです。自宅の地盤を知らずに木造住宅に住み続ける怖さをもっと重要視すべきです。一方で最近、地震で倒壊しにくい軽量パネルで造られた住宅も増えて来ています。さらに軟弱地盤を現地でセメントと混ぜて、杭と同じ補強効果を持たせる工法も目に付くようになりました。自宅倒壊の問題は、このほかにも、高齢者の住宅に多い屋根が重たく、昭和 56 年以前に建てられた木造家屋が耐震改修も地盤改良もしないで建っていることが挙げられます。



図2 昭和南海地震 (M8.0) による高知県下の建物の倒壊率 (金井ほか、1947)

これから予想される揺れ

前回の南海地震から 77 年が経ちました。昭和の南海地震の規模が歴史上の南海地震より小さかったことから、次は 100 年を待たずに 80 年目から 90 年目で発生する可能性も指摘されています。では最新の知識で、次の南海トラフの地震の揺れを考えてみましょう。

揺れ (震度) の見積もりはまず、地震を起こす震源域の範囲を定めることから始まります。そこからどのような地震の波が発生するか、地震の波

の伝わりかたを地盤の評価を加えて計算し、地表での揺れの程度 (震度) を導きます。

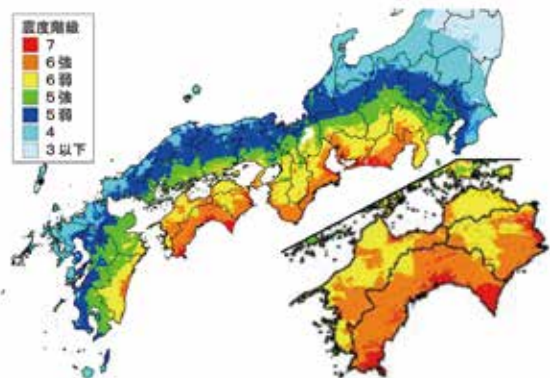


図3 南海トラフの巨大地震による最大クラスの震度分布 (いくつかの震度推計の最大値の重ね合わせ)。(中央防災会議「南海トラフの巨大地震検討会」2012.)

図3は最大の地震が発生した場合の揺れを想定したもので、次の地震が必ずこうなると予測しているものではありません。また、いくつかの想定震源域毎の最大の値を重ね合わせたものですから、単独の南海地震でこのような震度分布になるという訳でもありません。高知県内では、地盤は良い室戸市周辺と足摺岬周辺で震源面までの深さが浅い部分、及び地盤の悪い高知市周辺などで震度 7 の最大震度が予想されています。この予想は図1や図2で示した、経験的な震度とよく合っています。自然の地盤の問題だけではなく、さらに軟弱地盤と同じような地盤特性を持った新興住宅地の「谷埋め盛り土」部分も大きな地震被害が予想されます。これらの地盤情報は、高知県のホームページを通じて広報されており、今お住まいの住宅の地盤がより安全な「切土」か、危険な「谷埋め盛り土」か、を知る事ができるとともに、これから住宅を建てようと考えている方にはぜひ参考にさせていただきたい情報です。

今回は被害を拡大する揺れの長さとして「緊急地震情報」について述べていきます。

「安芸林業事務所での森林土木業務」

高知県安芸林業事務所 森林土木課 主幹 小路口 沙 織

1. はじめに

私は、令和5年4月1日の人事異動により、高知県森づくり推進課から安芸林業事務所森林土木課へ配属になりました。

平成14年度に入庁して以来、これまでに勤務した出先機関は中央東林業事務所しかなかったため、管内に山あり海ありの安芸林業事務所での勤務にワクワクしていました。中央東林業管内とは自然環境も異なり、防潮堤の関係などこれまでやったことのない工事があるのだろうか、とか、現場へ行くときにニホンカモシカに会えるかな、など漠然と考えながら安芸林業事務所での業務が始まりました。



安田町唐浜 防潮堤の工事をします

2. 久々の森林土木業務

森林土木業務は前事務所時代に初めて担当した後、森づくり推進課での3年の間を空け、当事務所で再度担当することとなりましたが、この間に ICT 施工、週休2日制、情報共有システムの導入など、様々な新しい制度が登場していました。

土木業界における働き方改革などの時代に合わせた取り組みを初めとして、色々なことがガラリと変わってしまっていて、その変化のスピードに驚くとともに、前回担当したときに覚えたはずの森林土木に関する知識やシステムの使い方など、業務に関するあれこれが自分で思っていた以上に記憶があいまいになっていて、上司や同僚に助けてもらい、学び直しながら日々の業務にあたっているところです。

3. 現場について

前所属の担当業務は内業がほとんどで、業務で山へ出て行ける機会は年に1～2回程度でしたが、森林土木業務の担当になり、施工中の現場での段階確認等の立会で外へ出て行く機会が増えました。事務所を出発してたどり着くまでに2時間ほどかかる現場もあり、はじめの頃は無事に現場にたどり着けるのだろうかと不安になりながら運転し、林道沿いに担当現場の工事看板が目に入った時、ほっとしたのを思い出します。



谷止工を計画している現場です

地形が急峻で雨も多いために、大雨の後には道が通れなくなったり、施工箇所に崩土が流れ込んでくるなどの現場もあり、その時々で施工業者さんに指示をしながら工事を進めていくことになるのですが、未だにそういった場面での適切な判断や指示というものがとても難しいと感じています。長く経験を積んでこられた上司や同僚に相談をしたり現場に同行してもらい、アドバイスを受けながら現場の完成に向けて取り組んでいます。



治山測量の打合せ（筆者右）

工事前は荒れていた溪流や崩壊していた山腹が、工事の完成が近づききれいになった様子を見ると、やってよかった、と、毎回どこの工事でも日々の苦勞が飛んでいくような気持ちになり、そしてまた新しい気持ちで次の現場に向かうことができます。森林土木業務の良いところだと感じています。



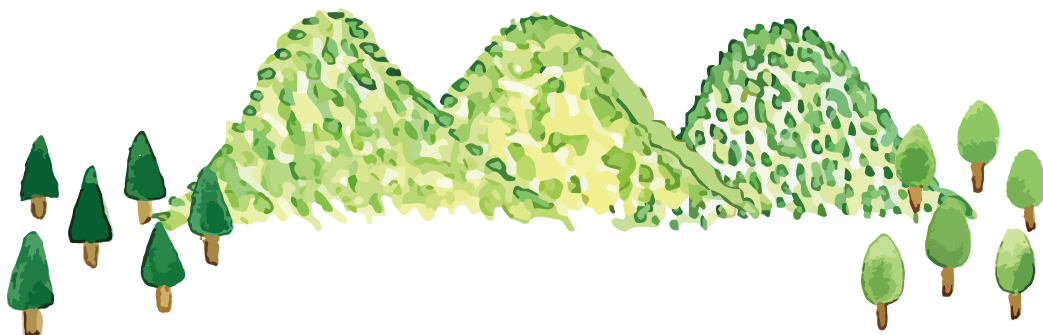
完成間近の現場です

4. おわりに

まだ短い間ですが、これまで私が森林土木の業務に携わってきた中でよく感じることもあるのですが、それは、現場を自分の目で見ることの大切さです。

経験不足というものもあるかとは思いますが、電話や図面だけではなかなか腑に落ちないことも、現場へ行って直接見ると「ああ、そういうことだったのか」とすんなり理解できることが多々あり、現場へ足を運び、自分の目で見て考えることの大切さをこれまで何度も実感しました。

このことは森林土木業務に限らず、どのような業務を行ううえでも必要なことだと思っています。これから将来的にどのような部署へ配属になっても、この「実際に現場へ行って見てみることを心に留めながら、今後も仕事に取り組んでいきたいと思っています。



令和5年度 民有林森林土木優良工事コンクール・林道維持管理コンクール・ 森林土木工事木材使用設計コンクールの審査にあたって

コンクール審査委員長

高知県林業振興・環境部 治山林道課長 松尾文昭

一般社団法人高知県山林協会主催による令和5年度民有林森林土木優良工事等のコンクールの審査が、7月25日に行われました。

「森林土木優良工事コンクール」及び「森林土木工事木材使用設計コンクール」の対象は、令和4年度中に完成した契約金額が1千万円以上の森林土木工事（治山工事及び林道工事）です。

また、「林道維持管理コンクール」では、県内979路線のうち供用開始後3年以上が経過し、かつ延長が2,000 m以上の路線が対象となりました。

この中で、各林業事務所から推薦のあった工事及び路線を厳正に審査した結果、

- ・森林土木優良工事（治山の部）14件
- ・森林土木優良工事（林道の部）10件
- ・林道維持管理 2件
- ・森林土木工事木材使用設計（治山の部）1件
- ・森林土木工事木材使用設計（林道の部）1件

計28件を入賞とし、表彰することに決定しました。

審査に当たって、「森林土木優良工事」部門では、出来栄を重視しながら、施工技術や施工管理の適否、環境への配慮や周囲景観との調和等の観点から総合的に評価しました。



松谷林地荒廃防止工事
「森林土木優良工事（治山の部）」



寒風大座礼東線1工区工事
「森林土木優良工事（林道の部）」

次に、「林道維持管理」部門では、林道が適正に維持管理されていることに加え、市町村や地域住民の皆さまの取組状況等を評価のポイントとして審査しました。



西谷朝日出線「林道維持管理」

そして、「森林土木工事木材使用設計」部門では、木材の利活用が間伐を推進し、森林の公益的機能を高めるとともに、県内木材関連産業の振興にも寄与することから、木材を積極的に活用した工事を対象に審査しました。



井崎林地荒廃防止工事 「森林土木工事木材使用設計（治山の部）」



土居柳野線2工区工事 「森林土木工事木材使用設計（林道の部）」

受賞された皆さまには、改めてお喜びを申し上げますとともに、それぞれの部門での真摯な取組に対し、心から敬意を表します。

また、施工者の皆さまにおかれましては、今後とも、知識・技術の研鑽や施工方法の創意工夫、地域貢献等に努められて、工事を完遂していただきますようお願いいたします。

近年、気候変動の影響により、台風や前線に伴うゲリラ豪雨など災害リスクが格段に増加し、本県においても、本年5月末に梅雨入りした直後に、台風2号及び梅雨前線の活動に伴う線状降水帯の影響により、山地災害等が発生しました。

また、近い将来に必ず起こると言われている南海トラフ巨大地震では、多くの山地災害の発生が予想され、こうした災害から、県土を保全し、県民の生命・財産を守るためには、治山対策をさらに進めて行く必要があります。

一方、県の「産業振興計画」における林業分野の戦略の柱の1つである「原木生産の拡大」のためには、森林施業の基盤となる林道の整備は必要不可欠です。

併せて、国道や県道等が災害により通行止めとなった際には、迂回路としての役割を果たす地域生活に欠かせない施設として、林道整備をさらに進めて行く必要があると考えています。

このように、森林土木事業は、県民の安心・安全や林業振興等の礎となる事業であり、県として、今後も全力で取り組んで参ります。

皆さまにおかれましては、森林土木事業等のインフラ整備を通じた地域住民の安全・安心の実現と、中山間地域の振興にご協力をお願いして、審査報告とさせていただきます。

民有林森林土木優良工事コンクール受賞者一覧（治山の部）

一谷復旧治山工事	有限会社 岩 城 組
魚梁瀬 No.5 水源森林再生対策工事	湯 浅 建 設 株 式 有 限 公 司
高川復旧治山工事	高 陽 開 発 株 式 有 限 公 司
中尾谷復旧治山工事	有限会社 武 政 建 設
西川地すべり防止工事	有限会社 ムクタ工業
小日浦復旧治山工事	サクセス工業株式会社
大森復旧治山工事	有限会社 手 箱 建 設
東谷林地荒廃防止工事	有限会社 森 木 組
正尺林地荒廃防止工事	有限会社 中 山 工 業
松谷林地荒廃防止工事	杉 本 土 建 株 式 有 限 公 司
浦ノ内林地荒廃防止工事	サクセス工業株式会社
窪津林地荒廃防止工事	東 工 業 株 式 有 限 公 司
橘浦 No.1 林地荒廃防止工事	株式会社 伊 与 田 組
安満地 No.1 復旧治山工事	株式会社 小 島 組

民有林森林土木優良工事コンクール受賞者一覧（林道の部）

森林管理道開設事業島日浦線工事	有限会社 礪 部 組
森林基幹道開設事業小川線1工区工事	森 本 産 業 有 限 公 司
森林基幹道開設事業小川線2工区工事	有限会社 誠興建設
森林基幹道開設事業寒風大座礼東線1工区工事	有限会社 山 中 建 設
幹線林道開設事業上名・用居線3工区工事	株式会社 晃 立
森林管理道開設事業ンバゴヤ線1工区工事	株式会社 西森建設
森林基幹道開設事業土居柳野線3工区工事	国友商事株式会社
森林基幹道開設事業土居柳野線2工区工事	有限会社 岡林土建
幹線林道開設事業上名・用居線1工区工事	有限会社 藤原建設
幹線林道開設事業櫛原・東津野線工事	岩井建設株式会社

民有林林道維持管理コンクール受賞者一覧

西谷朝日出線	馬路村
奥栗一谷線	馬路村

民有林森林土木工事木材使用設計コンクール受賞者一覧（治山の部）

井崎林地荒廃防止工事（須崎林業事務所）	林 嵩城
---------------------	------

民有林森林土木工事木材使用設計コンクール受賞者一覧（林道の部）

森林基幹道開設事業土居柳野線2工区工事（中央西林業事務所）	内田 和孝
-------------------------------	-------

令和5年度(一社)高知県山林協会通常総会開催

一般社団法人高知県山林協会 常務理事 永野俊彦

(一社)高知県山林協会の令和5年度通常総会が8月25日、「ザ クラウンパレス新阪急高知」に於いて開催されました。総会には、高知県からは武藤林業振興・環境部長、松尾治山林道課長ほか各林業事務所長、県議会からは弘田議長、林野庁からは木下森林整備課長、遠藤四国森林管理局長、(一社)日本治山治水協会・日本林道協会からは津元専務理事、高知新聞社からは伊藤営業局長、友好団体からは高知県森林組合連合会戸田会長始めとする多くの皆様、国政からは、衆参両院の各先生方や秘書の皆様のご臨席を賜ると共に、多数会員(市町村・森林組合)参加のもと開催されました。



挨拶をする池田会長

開会にあたり池田会長が、次のように挨拶を述べました。

「令和5年度の通常総会を開催しましたところ、大変お忙しい中、ご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

近年の総会は、新型コロナの感染対策として、会員のみの総会とさせていただきましたが、今回は4年ぶりの通常開催とし、令和2年から自粛していた表彰式も執り行うこととしています。「森や自然についての子ども達の作文コンクール」については、本年度で23回目を迎えることとなり、今年も、県内外25の小・中学校から、205点のご応募をいただいたところです。本日、表彰を受けられます生徒の皆さん、本当におめでとうございます。皆さん

が、作文に込められた“思い”これからも大切に持ち続けていただきますようお願いいたします。また、審査委員長をお願いしました高知新聞社営業局長の伊藤様を始め、審査員の皆様には大変お世話になり、心よりお礼を申し上げます。

次に、民有林森林土木優良工事等コンクールでございます。本日、表彰を受けられます企業並びに林道管理者の皆様、本日は誠にありがとうございます。皆様の、平素からの並々ならぬご努力に対し、深く敬意を表しますとともに、今後益々のご発展を祈念いたします。また、審査委員長をお願いしました、高知県の松尾治山林道課長様を始め、審査員の皆様には大変お世話になり、本席をお借りしてお礼申し上げます。

次に、令和4年度の決算状況についてご報告します。まず、一般社団法人への移行により、義務づけられております公益目的事業につきましては、コロナの影響を考慮し、中止としたものもありますが、ほぼ計画どおり実行することができました。また、収益事業であるコンサルタント業務では、県や会員の皆様から、治山・林道事業等の測量・設計・調査業務を順調に受注できましたことにより、まずまずの決算をあげることができました。

本席をお借りしまして、改めてお礼申し上げます。本日は、令和4年度の事業報告及び収支決算、令和5年度の事業計画及び収支予算など、7件の議案をご提案させていただきますが、なにとぞ適切なご審議を賜りますよう、よろしくお願いをいたします。」

続いて表彰式が行われ、森林の重要性や山村振興と森林整備事業の普及啓発を目的とした「森や自然についての子ども達の作文コンクール」では、山の大賞(最優秀賞)を受賞した6名の方を表彰しました。ご家族の皆さんにもご参加頂き、大変和やかな表彰式となりました。また、民有林森林土木優良工事等コンクールの表彰式が行われ、優良企業と馬路村、県職員の方々が表彰を受けました。



作文コンクール 山の大賞受賞者



優良工事 受賞者

来賓祝辞では、ご出席頂いた武藤林業振興・環境部長、弘田県議会議員、林野庁木下森林整備課長、四国森林管理局遠藤局長、中谷衆議院議員、尾崎衆議院議員、梶原参議院議員、(一社)日本治山治水協会・日本林道協会津元専務、の皆様からご祝辞を賜りました。



休憩の後議事に移り、令和4年度事業報告及び収支決算、令和4年度公益目的支出計画実施報告書、

令和5年度事業計画及び収支予算等全7議案が原案通り承認されました。

任期満了に伴う役員の改選では、令和3年から2年間常務理事を務められた田島史一氏が退任され、山崎 出馬路村長と本協会永野俊彦総務部長が理事に、中尾博憲四万十町長が監事に、それぞれ就任されました。7号議案では、次の事項が満場一致で決議され、関係各方面に要望活動を行うこととしました。

- 一、国土の保全と国民生活の安全を図る治山対策の積極的推進
- 一、森林の整備や中山間地域の活性化と生活環境の改善に必要な路網整備の積極的推進
- 一、森林・林業・木材産業振興策の積極的推進



本年度の通常総会は4年ぶりの通常開催となりました。コロナ感染症対策として自粛していました作文コンクール並びに森林土木優良工事コンクール等の表彰式も行い、大勢の子ども達や企業の方にもご出席頂き、大変賑やかな総会となりました。また、総会終了後の懇親会では、四国森林管理局宮沢森林整備部長、谷脇林業振興・環境部副部長、大野木材増産課長、吉門治山林道課課長補佐、吉村治山林道課技査、北代治山担当チーフ、伊勢脇林道担当チーフの皆様にもご参加頂き、盛会裡に終了することができました。

最後になりましたが、本協会の令和5年度通常総会が会員の皆様のご理解、ご協力により無事終わることができましたことに、紙面をお借りしまして厚くお礼申し上げます。

第23回 森や自然についての子ども達の作文コンクール

審査委員長講評

高知新聞社 営業局長 伊藤 能一

「森や自然についての子ども達の作文コンクール」は、23回目を迎えました。今年は小学生143作品、中学生62作品、合計205作品の応募がありました。内容がとても濃く、読み応えのある作品が数多く寄せられました。皆さん、ありがとうございました。

3年以上に渡って、私たちの生活を苦しめてきた新型コロナウイルスは、5月8日から「5類感染症」になり、やっと日常の活動が戻りつつあります。しかし環境に目を移すと、地球温暖化の悪影響は、より深刻化しているようです。ニュースでは連日のように、体温を超えるような全国各地の猛暑の様子や、大型化・長期化する台風の状況を伝えています。また線状降水帯による大雨の被害は、いつどこで起こってもおかしくありません。これからの未来を生きていく皆さんにとって、自然を守っていくことの大切さは、以前に増して、とても重要になってきています。

そんな中で、皆さんの作文には、その解決策のヒントがたくさん詰まっていました。自然を美しいと感じる心や、動物や植物を愛おしむ気持ちが、家族や友達とのふれあいを通じて、詩情豊かに表現されており、読みながら私もいっしょになって、うれしくなったり、悲しくなったり、楽しくなったりしました。また、山・川・海の役割の理解と、それを仕事で守っている人々がいることへの気づきは、私たち大人を大変勇気づけてくれます。また知るだけでなく、ごみを捨てない、拾う、分別するなど、これから自分ができることをやっという決意にも感動しました。

どうして皆さんがそう思うのでしょうか？その理由の一つは、私たちが暮らす高知県が、都会にはない、豊かな自然の宝庫だからといえます。作文には、地元が好き、高知が好き、という表現がたくさん出てきました。皆さんが、高知の自然を通じて、楽しみながら、成長している姿を心強く思います。

これからの世界的な課題である地球温暖化の防止は、簡単ではありません。が、自然豊かな高知県の暮らしこそが、それを食い止める最前線になる可能性があります。山や木々を守ることで、川・海が元気になり、自然のバランスが保たれるはずです。皆さん、どうか、作文を通じて、学んだことを実践し、高知県の豊かな自然を、次の世代に、引き継いでいきましょう。

来年もぜひ作文を応募してください。楽しみに待っています。

山の大賞（高知県山林協会会長賞）

小学校の部

低学年の部

しょくぶつってすごい！

高知市立一宮小学校 二年 ^{はぎ}萩 ^{はら}原 ^{ゆう}佑 ^た太

月見山こどもの森に行きました。森に入るとひんやりしていい気持ちでした。耳をすますと、雨がふるような音がしました。

「風がはっぱをゆらしている音だよ。」

と、お母さんが言いました。見上げると、はっぱのすきまから光がダイヤモンドのように見えました。

アスレチックのと中に、てんぼう台でおやつをたべました。

「おいしいね。」

とぼくが言うと、

「うん。空気もおいしいね。」

とお母さんが言いました。空気がおいしいなんて、へんなことを言うなあと思いました。

かえってから、「いきているひかり」という絵本を読みました。しょくぶつは、二さんかたんそをすいこんでさんそをはきだす。人間は、さんそをすいこんで二さんかたんそをはき出すということを知りました。しょくぶつがなかったら、ぼくはいきがでなくなってしまうことが分かりました。

つぎの休みに、まき野しょくぶつえんに行きました。そこで、アクアリウムと書いてある水そうを見ました。中には水草が入っていました。水草からは、一ミリメートルぐらいのとう明な小さなあわが、ぷくんぷくんと休まず出ていました。それが「さんそ」でした。

小さな水草からたくさんのさんそが出ているのを見て、月見山こどもの森からはどれだけたくさんのさんそが出ているのかなと思いました。もし目に見えたら、森中が水玉もようになっているんじゃないかなと思いました。

しょくぶつってすごいな。太ようの光のエネルギーをつかって、ぼくたちのいのちを守ってくれていることを知って、ぼくもしょくぶつや森を大切にしたいと思いました。そのために、もっと知ること、そして、それをみんなにつたえることが大じだと思いました。

コメント

佑太君、二年連続の「山の大賞」受賞おめでとうございます！昨年はセミの羽化の様子を詳しく書いてくれましたが、今年は植物が酸素を出すという大切な役割を書いてくれました。月見山こどもの森と、牧野植物園の水草を結び付けて、森から酸素が出ている様子を「もし目に見えたら、森中が水玉もようになっているんじゃないか」という表現に、すごいなって非常に感心しました。その想像力と表現力を、今後もどんどん磨いていってください。

中学年の部

おじいちゃんとの山での思い出

高知市立第四小学校 三年 おおぎいちな 仰木 一 菜



わたしのおじいちゃんとおばあちゃんの家は、すくもの田んぼや山のすぐそばにあります。スーパーやコンビニは近くにありません。

おばあちゃんの家にとまると、夜聞こえてくるのは、虫のなきごえだけで、町の車の音や人の声がしないので安心してねむれます。朝は鳥のなき声がして、早く外に行きたい気持ちになります。

お母さんのおなかに赤ちゃんがいる時、おじいちゃんが弟とわたしに「山にたんけんに行こう。」

とさそってくれました。

山に入ってわくわくしながらどんぐりを見つけたとよるこんでいたら、おじいちゃんが、「それはしいの実ぞ。」

と言っておじいちゃんはしいの実をはでわって、中の白い実を食べました。わたしも食べてみたくなったので、ふくろいっぱいしいの実をあつめました。

それを家に帰っておばあちゃんに見せると、きれいな水であらってくれて、ゆでてくれました。しいの実をおばあちゃんがわってくれたので、弟と食べると、味はほぼなかったけどなぜかおいしく感じました。

おじいちゃんはびょう気で亡くなったけど、おはかまいりに行くとししいの実が落ちているので、今は自分のはでわって食べています。しいの実を食べるといつもおじいちゃんとたんけんに行ったことを思い出して、おじいちゃんがすぐそばにるように感じます。

おじいちゃんは、たけのこほりにつれていってくれたり、山のおくのはたけまでドライブにつれていってくれました。その帰り道にはいつも車に気持ちいい風が入って来て、わたしはいつも気持ちよくねてしまっていました。

わたしは、しぜんの中にいると自由になれる気がします。

コメント

おじいちゃんとおばあちゃんの家で過ごした時間が、美しい文章で書かれていて、キラキラ輝いているようです。おじいちゃんと弟と「山にたんけん」に行って、しいの実を拾い、おばあちゃんに茹でてもらって食べた記憶は、大人になっても忘れない、素晴らしい思い出となることでしょう。おじいちゃんも、この作文を読んで、天国できっと喜んでいるでしょう。最後の「わたしは、しぜんの中にいると自由になれる気がします」という表現が、作文を引き締めています。

高学年の部

七里に生まれてよかった

四万十町立七里小学校 五年 ^{あお}青 ^き木 ^{あさ}朝 ^ひ陽

電子黒板に映し出されたユーチューブの映像にくぎづけになっていたぼくは、思わず、

「ここって、絶対に田舎の自然きれいランキング第一位の場所や。」とつぶやいた。それは、何とぼくたちの住む七里をドローンでさつえいしたものだった。

上空から見る田んぼの水はすき通り、水面には雲や周りの山の木々が映っていた。植え付けられたばかりの稲の緑色と重なって幻想的だった。田んぼから立ちこめる朝もやに山の上から朝日がふりそそぐ様子は、絶景としか言いようがない。こんなにきれいな場所に自分が住んでいることに感動し、(七里に生まれてよかった)と心の底から思った。

春に遠足で行った三せきの川が映った時、流れる水の音や川も泳ぐ鮎のような魚のことを思い出した。ぼくは、川原で見付けた平らな石を使って、友達と水切りをした。ぼくの投げた石は、ビュンビュンと水面を走り、六回はねた。水切りの次は、周りに落ちていた竹の棒の先をわって、筆のようなものを作った。それに川の水を付けて、大きな石に絵を描いた。三せきには、ブランコもすべり台もサッカーゴールもない。でも、ぼくたちは、いつも時間を忘れて夢中で遊ぶ。

映像の中には、四年生の時、四万十川財団の神田さんに習いながら水生生物調査を行った勝賀野川も映っていた。たしかにサワガニ、ヒラタカゲロウ、カワゲラなど十三種類の水生生物を見つけ、その水質がきれいであることを証明することができた。

ぼくの住む七里は、山や川から出されるマイナスイオンたっぷりの自然豊かなユートピア。その中で、人も魚も全ての生き物が元気に暮らしている。そんなことを、ドローン映像が気付かせてくれたように思う。ぼくは、この美しい七里の自然をいつまでも大切に见守り続けたい。

コメント

ドローンの映像に映し出された地元・七里の美しさに気付き、驚く様子がストレートに伝わってきました。田んぼの水面に映る木々や朝日がふりそそぐ様子の模写は、写実的で、観察眼があります。三せきや勝賀野川の映像からは、遠足の楽しい思い出や、水生生物調査で学んだことが書かれており、地元の自然体験を通じて、様々なことを学習している様子が分かります。「七里に生まれてよかった」「七里は自然豊かなユートピア」という地元愛に感動しました。

中学校の部

僕の大切なふるさと

調布市立調布中学校 二年 ^{てら}寺 ^{ざき}寄 ^{あき}晃 ^{ひろ}弘

僕は高知県が大好きだ。母は高知、父が東京出身の為、高知生まれの東京育ちの「ハーフ」である、もちろん家族の中では、僕は土佐弁を使っている。

毎年、春休み、夏休み、冬休みは、高知に帰省している。飛行機の窓から見える高知の圧倒的な青空と海、一面に広がる田園風景は毎回東京より帰ってきた僕の心を一瞬で豊かな気持ちにしてくれる。

高知の自然は特別に美しい。祖母の家からなにげなく見上げる山は美しく、心が落ち着く。毎朝、祖父と鴻ノ森の山を散歩するが、季節によってさまざまな風景を楽しむ事ができるので、僕にとっては大切な時だ。

春には、「かんたろう」が出てきて、飛び上がる程驚き、森林の中では、気持ちが落ち着く。夏には近くの川で魚と泳ぎ、浮き輪に乗ってゆっくり流されながら空を見上げるのも好きだ。また、川に飛び込む時はとても快感がある。

高知の街並みも好きである。自分の住んでいる東京のようにがやがやしておらず、周りが山に囲まれている中に、建築物が建っているのがなかなか良い。路面電車の中からその風景をながめ、またそれがレトロな音と調和し、昔の高知の風景に思いをめぐらしている。

高知の野菜、果物、魚は他県のものとは比べてとてもおいしい。僕の一番のお気に入りには知り合いが届けてくれる土佐次郎の卵で食べる卵かけごはん。

全てのおいしさの秘密は、やはり豊かな自然のおかげだ。僕は高知の自然はいつまでも残ってほしいと思っている。山、川、海、空全てつながってこのすばらしい自然がある。他県よりも、だんぜん山間部が多く、自然とふれ合う事ができるので、遊びに行くなら、高知県をおすすめしている。けれども、もしその自然が壊れることがあったら、高知の良さはなくなってしまう。

たくさんの自然の恩恵を受けて育った僕は東京に住んでいるからこそすばらしい自然が人に与える影響を一番に分かっている。この作文募集の記事は、祖母より送られてきた野菜を包んでいる新聞より見つけた。日頃より高知を愛しているので、この記事を見つける事ができて嬉しかった。

僕は将来は高知で働きたい。次の世代の子ども達にこの自然を受け継いでほしいので、それに携わる仕事につきたいと思っている。高知の自然は僕にとって元気の源だ。

コメント

東京から応募してくれてありがとう。普段は東京で暮らしているからこそ分かる高知の良さが、たくさんの事例をあげて書かれていて、高知への愛情が伝わってきます。高知を好きな理由は豊かな自然であるとし、「山、川、海、空全てがつながってこのすばらしい自然がある」と理解しているのが頼もしい。「僕は将来は高知で働きたい。」「高知の自然は僕にとって元気の源だ。」高知で暮らす私たちにとって、こんなにうれしい表現はありません。ありがとう。

中学校の部

キャンバスフレーム

大川村立大川小中学校 八年 ^{もり}森 ^た田 ^{はる}晴 ^ひ陽

僕は東京からこの大川村に留学をしてきた。今、この自然溢れる場所で何をする事ができるのか、また、将来僕が自然とどう向き合っていくのかを考えていくためでもあった。

ある休日、僕は部活で疲れていたの椅子に座りながらぼんやりと山を見て休んでいた。その山はどこからどう見ても「ただの山」だった。都会に住んでいても山は見慣れている。だから、特別な思いを持つこともなくその山から目を逸らし、本を読みに行った。

その後のある休日、その日は晴れていて良い運動日和だったのだが、珍しく部活動がない日だったので、いつもよりも暇で少し憂鬱だった。またぼんやりと山を眺めていたら、絵を描いたら暇が潰せると閃いたので、ちょうど持って帰ってきていた絵の具バックを開き、目の前にある山を描き始めた。自分にしては上手に山と木を描くことができたと思っ

ていたが、その絵は水で薄めた緑一色の、「ただの山」だった。

ある日、自然に関係する作文を書いてくる宿題が出されて、自分は机にその宿題を置き、椅子に座って、真横にある山を本気でじっくり見つめ始めた。この前はぼんやり見ていたので気づかなかったが山の中の木を見るだけでも、枯れ果てて白くなってしまった木、まだ夏の季節なのに赤くなっている気が早い木、太陽光を独り占めするように長く伸びた薄緑色の木、まだまだ若々しくてどんどん伸びようとしている黄緑色の木、自分よりも長い年月生きてきて、時の流れというものを教えてくれるような、もう葉が濃い緑色となってしまった老木など、幾つもの色の木がその一つの山の中にまるでおもちゃ箱のように詰め込まれていた。その様子を見た僕は、その窓から見た色とりどりの山を言い換えて「キャンバスフレーム」と名前をつけた。

さらにその後の休日、留学先のイベントのようなもので、植物をよく知っている人と、あの「キャンバス」に登って、生物観察をすることになった。自分は山登りと観察が好きなので、気合が入っていた。そしてその山に入ることと気がついたのが、遠くから見るだけではわからなかったような、トゲトゲの葉っぱ、木に巻き付いたつる、そして腐った木にこびりついて生きているコケや、白、黄色、赤、ピンク、青、紫の色に咲いた花々、そして葉の陰に隠れていた黄緑……である。

植物に物知な人が「おお、シュンランか、珍しいね」と言ってくれた。その言葉に僕は嬉しくなって、周りを探していると、大きな獣が通ったであろう道、耳をすまれば都会では聞いたこともないような綺麗な鳥の声などに気づいた。また、あたりが一気に「パァッ」と音をたて、明るくなったような気がしたのち、この山は「自然と色が溢れ混ざったキャンバス」なのだということに気がついた。

その後日、今度は美術の授業で絵を描くこととなった。自分は山の広さ、そして大きさの迫力を表現しつつ、思いつくがままに絵を描いた。そして完成した絵は、力強く、大きく、そして緑色だけでなく、赤、白、黄色などの様々な色が使われた「山」だった。

コメント

木や葉の色の表現がとても上手な上、作文全体の構成や展開も素晴らしく、感心しました。最初は緑一色だけの「ただの山」の絵が、観察を経て「幾つもの色が詰め込まれたキャンバスフレーム」に変化し、最後に「完成した絵は、力強く、大きく、様々な色が使われた山」に変わる過程は、圧巻です。そして私たちに、物事の本質は、表面だけを見ただけでは分からないということ、詳しく観察することによって、初めてその本質に迫れるということ、示唆してくれています。

中学校の部

自然を守り、活かす

大川村立大川小中学校 九年 ^{ほし}星 ^の野 ^{じゅうゆうた}十遊大

僕は自然が大好きだ。木と土の匂いや時折姿を見せる岩の様子、頂上の絶景を愉しむ山登りなどはまさにこの素晴らしい自然を満喫できる素晴らしいものと言えるだろう。また、清流に釣り糸を垂れての魚との駆け引きには胸を踊らす。しかし、自然が好きと言っても、自然という言葉は抽象的で多くの側面を持つ。当然、森の景観的な美しさなどもあるし木などを伐採することは金銭的な価値を生む。別の側面として、台風や地震などが引き起こす災害で受ける被害は甚大なものとなる。

ある時ふと思った。今、僕の周りを取り囲むこの自然とは、この地に人が住み始めてから脈々と受け継がれてきたものだ。過去から現在へと繋がれてきたこのバトンを僕たちは生活の一部として取り込み、己の糧として享受してきた。また、先ほど書いたように台風や地震では大きな被害が起きるが、その都度過去の人々は対策を講じ被害を最小の形に留めようとしてきた。つまり、人々は自分達にとっての負の側面を最小にし良い側面を今出来る最大の形にし、時にはその負の側面すらも反転させ良い側面にすることでより自分達にとって価値のあるものにしてきたということだ。

そうして受け継いできたバトンの恩恵は絶大で僕達の生活を豊かなものにしてくれる。仮に今、この自然の恩恵を享受することが出来なくなったとしたら、僕達は、数日もしない内に困り果てるだろう。つまり、このバトンを僕達の代で味わい尽くしてしまうと次世代の人々が生活に困窮することになるということだ。

また、「生活をする為」という一面だけでなく、その美しさは心を感動させ、時には奮い立たせるための源泉となる。それは人々の心に豊かな感受性を育む上でも重要な事だろう。そう言った意味でも自然は人々の生活には欠かせない大事なものだ。

このように、生活と自然の雄大さという二側面から見てもこの素晴らしいバトンは、将来この地に住むであろう人々に繋いでいかなければならない大事なものということができるだろう。

また自然は人の手が入ることで新たな側面が生まれてくると思う。勿論先程書いたような自然の雄大さは、人の手が入ってないことで魅力が発揮されることもあるが、適宜植林や伐採をすることで地球全体の二酸化炭素量を減らしたり、木の発育を促進させることもできる。他にも、ある程度の安全を確保した上でのレジャー体験などもできる。

そうすることで、自然は地球保全や商業的価値などを具有することが出来るのだ。つまり、自然に人の手を加えるということは新たな側面を付加することだということが出来る。だからこそ、自然に人の手を介在させることは重要なことだと言える。

僕はこの二つの事柄を認識した上で、自然に対して働きかけることが非常に重要だと思う。今、僕は山村留学生の一員として村民の方々の手を借りながら地域の廃材や雑木の撤去を進めている。こうしたことが、観光的商業価値という新たな側面を創造しつつも美しい形で自然を次世代へ継承することにつながる第一歩だと思う。

だから、僕は今の活動を推進したり、新たな活動を行うことで、今の自然を守りつつも新たな魅力的な側面を見出ししていきたい。

コメント

自然という抽象的な言葉を、いろいろな事例を使って、具体的に説明していく内容は、「なるほど」と納得できる表現が多く、読む人を惹きつけます。また自然から受ける恩恵を理解し、先人への感謝や、次の人々に引き継いでいく必要性がよく伝わってきます。そのためには植林や伐採など「自然に人の手を加えること」「自然に対して働きかけること」の重要性に、読み手はあらためて気付かされます。自然を守り、魅力的な側面を見出ししていく活動を応援しています。がんばってください。

テクノ ア・ラ・カルト

— 逍遙する「技術」2：建築構法と家具 —

(前) 一般社団法人高知県山林協会 技術専門官 長澤佳暁

この7月に開催された日本林業技士会 四国支部総会で同技士会本部の小林会長が来高され、その際の講演で、第3次ウッドショック後の森林・林業の課題など最近の林業動向を説明していただきました。その中で林業界のクラスター化など新たな動きに加え、木造住宅で9割が木造軸組パネル工法とのコメントがありました。



そこで、本号では在来工法の魅力とは？について建築構法の一つである「納屋型」を例に述べ、家具は建築の一部の観点で「椅子」に触れてみます。

1 近年の住宅建築様式



令和4年度林業白書によると、近年のスギ・ヒノキ等の国産材の住宅建築使用率はここ6年余りで増加しています。また、建築工法では、木造軸組工法(在来工法)が78.8%、枠組壁工法(ツーバイフォー工法)が19.1%などとなっています。

以上の統計数値からは住宅建築で国産材もそれなりに使用されているのでひとまずは安心した次第です。



一方、次の課題もあります。

① 建築における伝統技術の維持

住宅建築単価と施工期間の観点で、発注者に負担が大きくないことが住宅建設に求められます。更に断熱性等省エネを満足することも必須です。この潮流から、国産材(スギ・ヒノキ等)を伝統的構法により自然素材が持つ質感を引き出す形態がどんどん少なくなっている印象です。

② 在来構法における新たな発想の系統化

国産材を使用した合理的な構法の普及が望めます。その一例として「納屋型」構法を次に紹介します。

2 「納屋型」構法について

在来木造住宅の構造形式の一つである「納屋型」について、考案した設計事務所の資料(1989年)から転記(部分：下記)させてもらいました。

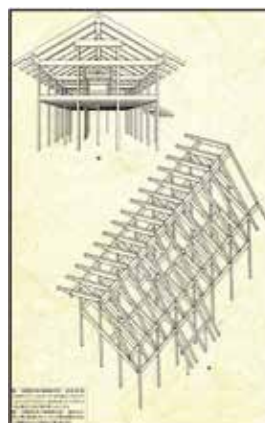
『土佐の家<納屋型>は耐久力と県産材活用の両面より私(上田所長(当時))が試みている住宅の構法の名前です。建築が短命では不動産と呼べません。まして、今日のような豊かな日本がいつまでも続くとは思われません。そこで少なくとも60年、2世代は生活を営むことができ、その家族にとっての財産と成り得ることを求めた住宅です。 — (略) —

この構法は台風常襲地である土佐の風土に耐えるべく蓄積され、「いごっそう」精神で生き続ける納屋の構法に教えられたものです。(略)

その蓄積された構法を生かし原則として一般材(径30cm以下、長さ4m未満の材)で組み上げることができる、力のバランスの良い平面計画により「納屋型」は成り立っています。梁間方向は1.5間スパンとし、桁方向に1.0間毎に柱を建てることのできる平面です。

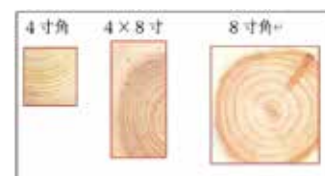
これにより、柱は4寸角(大黒柱は8寸角)軒桁・床梁・登り梁すべて4寸×8寸(ただし棟木のみ8寸角)で整理することができます。

木材の使用量は一般の住宅より約40%多いのですが、梁材をはじめ柱の寸法及び仕口・継手が規格化されているため施工性も良く、大工手間を減らすことができ、コストダウンとなっています。また、同サイズでシステムティックに梁・柱を組むことによるモダンさも求めています。』



この構法の魅力を再整理しました。

① 構造材は基本的に下図の3断面で、梁等は単一断面(4×8寸)の合理的構造



② 空間が「表し(あらわし：構造材が見える状態のまま仕上げる方法)」仕上げるため、木材を系統的に活用した構造形状

③ ①、②により室内がダイナミックさとモダンさ

を併せ持つこと

「納屋型」の投影図（17p 図「土佐派の家」より）から合理的な構造がイメージできます。

3 伝統的構法における「技術」の位置づけ

統計書等では十把一絡げに「木造軸組工法（在来工法）」とされている大半は「木造軸組パネル工法」のようです。

経済成長と生活様式の変化に伴い、多くは室外も室内も大壁構造で工場生産品が建物の内外を占め、スギ・ヒノキ等の木材が見える部分は床や階段と梁の一部が一般的です。

建設コスト削減、更に高い断熱性確保などの条件をクリアする手法に違いがないからです。

BS 番組に「小さな村の物語 イタリア」が放映されていて、感心するのは家族や地域とのつながりを大切にしていること、番組の「家」は新築がほとんどなく、多くは築数十年以上で簡素で頑丈な梁の構法、室内はどの家も無垢材の家具で構成されています。

住宅空間が人生哲学の一部であり、建築が伝統技術で構成されていると感じました。

AI 等先進技術の進展と併せて忘れてはならないのは「本来の技術」です。

その「本来の技術」は程度の差はあっても現代の住宅に内在していますが、問題はその技術が完成後に見えるか？ということです。

住宅建築における技術の「見える化」のためにも、伝統構法を現代版に蘇らせたバリエーションを求めるべきだと思います。

システムの若い人にもアピールできるモダンさも併せ持つ構法の開発・普及が、日本で培ってきた技術の継承にも結び付くはずです。



ここで住宅における継承された技術の具体例を列記します。

- A 開放的な空間
- B 自然素材による安らぎが得られ、年数を経ることで自然素材独自の深みが出る
- C 建物の内部が表し仕上げの場合、職人さんの技術の形跡が日常生活の中で感じられる

森林土木においても、規定・基準等に則りながら独自の技術合理性が技術者に求められます。

建築関係でも技術主体性を伝統構法にどう反映していくか…がポイントと考えます。

【建築の一部としての家具：椅子の場合】



（↑撮影：上田 宏）

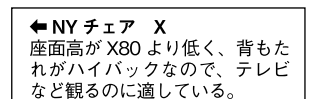
椅子は、食卓用とくつろぎ用に大別されます。

くつろぎ用の椅子は、建築と同様にデザイン性を確保し、くつろぎ用の場合は複数の機能性も追加的に求められます。ということで、折畳み可能な帆布の椅子 2 種類を長年愛用しています。

下の写真の「NY(ニー)チェア」は徳島の新井 猛(にいたけし：故人) がデザインしたもので、X80 タイプは最近復刻されたので、X タイプと共に県内で入手可能です。



NY チェア X80 →
35 年前から使用していてシート
の帆布は取替できるので現在の
レンガ色は 3 回目の交換。



X80 は、コンパクト・軽量なので、庭先の木陰でとか、車に積み込んで公園の一角でくつろぐ時など多目的に使用できるので大変重宝しています。

外観と共に座ることでデザイナーの感性が直に伝わってくるのが椅子の「特徴」です。

住宅も椅子と同様な「特徴」を持つべきです。

本来の在来工法による木造住宅はスギ・ヒノキの木材等自然素材から構成されており、設計者や職人の技(わざ)が技術者の感性となって年数を経るに従い「深み」となって伝わってくる「特徴」があります。

これも「コスト・パフォーマンス」の一つでないでしょうか。

「四国遍路」

一般社団法人高知県山林協会 伊野支所 主任 齒朶尾 慎 二

私は、室戸市の出身ですが、子供の頃から杖を持ち白衣を着て国道を歩いている人が、目に入っていました。小さなころは気にも留めなかった風景ですが、現在この風景を見るとどんな思いを心に持ち、なにを願いながら、一步一步、歩いているのかと勝手に思ってしまう。



第24番札所 室戸山明星院最御崎寺

ある対談を聞いていると、四国の誇れるものは何でしょうかという問いに対して、それは、四国遍路ではないかという話をしていました。あまり身近な所にあるせいか、私たちにとってそんなに大切なものなのかと思い調べてみました。

四国遍路はお参りをする対象は弘法大師に対してであり、全長約1,200kmの道を共に歩く巡礼であります。巡礼の型としては、一つの聖地を巡る型と多くの聖地を巡る型があり、外国では一つの聖地を巡る型が多く、日本では多くの聖地を巡る型が多いということです。例としては、西国三十三箇所観音霊場、熊野詣などが上げられます。

四国地方は、古くから辺地（へじ）と呼ばれていて、そこには修行者がいて修業の道があり、弘法大師（空海）もその中の一人でありました。空海の入

滅後その足跡をたどろうと、四国を巡礼するようになったのが四国遍路の始まりであり、室町時代ごろは僧侶だけであったが江戸時代には、一般の人々がお遍路に廻るようになったとのこと。遍路は江戸時代初期には、病気やその他の理由で故郷を捨てなければならぬ人たちが職業遍路として生きていかなければならぬ状況にあったようであり。四国地方にはそのような理由から、遍路途中で亡くなった方の墓があり、お寺にも過去帳があるということ。イメージとしてはあまり良い感じがしないように思いますが、巡礼をすることにより病気を治そうと願っていたそうです。

現在では、交通が便利になり観光バスなどで廻るようになるなど、観光的な要素も加わり大変盛んに行われています。

四国八十八箇所を巡礼することを打つと言う言い方が残っています。

納札を現在は紙でお寺に納めますが、昔は木製や金属製であり、お参りしてから本堂や大師堂の柱に打ち付けていた名残からだそうです。



- ・ 順打ちは、一番札所から番号順に廻ることを言います。
- ・ 逆打ちは、八十八番札所から番号を逆に廻ることを言います。逆に廻ることによって、弘法大師とすれ違うことができるとされ、功德や御利益が何倍もあるとされています。しかし逆に廻るのは、難しいとされあまり行われていません。
- ・ 通し打ちは、八十八箇所の全部の札所を一度に巡ることを言います。
- ・ 区切り打ちは、自分で廻る順序も日数も決めて廻ります。
- ・ 一国打ちは、各県を一国として一国ずつ廻ることです。

次に参拝の方法についてのごく一般的手順は次の通りです。

- ・ 山門 門前で合掌一礼する。
- ・ 水屋 手と口を清める。
- ・ 鐘楼堂 鐘を二度突く。(実際は、行われていません。)
- ・ 本堂 納札を本堂の前にある、納札箱に入れる。ロウソク(1本)又は線香をあげます。他人のロウソクから火をつけない(他人の業をもらう)(4番目のロウソクたてに立てない)、お賽銭を上げる。お経を納める。
- ・ 大師堂 本堂と同じ。
- ・ 納経所 納経の証として、黒書、御朱印をいただく。
- ・ 山門 門前で合掌。

これで終わりです。

これを八十八箇所で行い廻りきると結願となり、最後には高野山(奥の院)に詣でる考え方がありますが定められたものではないそうです。

全長約 1,200km で 1 日 30km 歩いたとして 40 日かかる計算になりますが、考えただけで相当な時間と決意がいると思います。

仏教の世界では、此岸と彼岸という言葉があります。此岸は私たちの生きている世界を言い、彼岸は仏の知恵を持った世界を言うそうです。

宗教ををすると言う事は、彼岸の知恵にすぎることだとすると四国遍路は 60 才ぐらいの人が多くいそうですが、その年になった時どう考えているでしょう。



県立甫喜ヶ峰森林公園から

指定管理者 一般社団法人高知県山林協会 甫喜ヶ峰森林公園 主任 黒津光世

秋はやっぱり甫喜ヶ峰フェスティバル！

暑い夏が終わるのか、終わらないのか、終わるのか…いずれにせよ、暦の上では夏は過ぎ去り、秋になってまいりました。

甫喜ヶ峰森林公園で秋と言えば、学校対応真っ盛り。日々、子どもさんたちと触れ合い、元気をもらっておりますが、もう一つ忘れてはならないのが『甫喜ヶ峰フェスティバル』。

コロナ禍で、この3年ほど中止や場所を分けるなどして実施してきましたが、今年度はキャンプ場を中心に開催する予定です。

昨年は雨のため、出店者も来園いただいたお客様も思うようにお楽しみいただけなかったかもしれません。今年の開催日は11月12日（日）。どうか、晴れますように！



↑ 昨年の甫喜ヶ峰フェスティバルの様子



↑ 今年のチラシです

今回の出店は、地元繁藤婦人防火クラブさん、高知県公営企業局さん、トサ・スラックラインさん、甫喜ヶ峰森林公園ネイチャーゲームの会さん、サーナヨガさん、室戸青少年自然の家さん、ロゼッタやシュシュ作りワークショップの名前はまだないさんのほか、絵本の読み聞かせ、ポップコーンや綿あめ販売、木工体験ブースなど、いつもお世話になっている皆さん方。また、初めて唐揚げ販売のキッチンカーもやってきます。

そんななか、今年は高知県文化財団さんのご協力で、なんと！なんと！なんと～！素敵なアーティストの出演が決定しました。

アコースティックギター弾き語りの羽屋戸橋道さん、発明家、芸術家のたいがー・りーさん、アコー

ディオン奏者の坂野志麻さん、2人組音楽ユニットのサンドイッチパーラーさんが出演してくれることになりました。無料で、生で、目の前で、見ることができます。雨だろうと、何だろうと、ぜひ！この機会にお越しください。

また、12月3日（日）には、『mini Trail Jamboree in 甫喜ヶ峰 2023』を開催します。

今年から、距離を短くしましたので mini になります。10km コースは約 6km に、リレーは 3 人 1 組で 1 人約 2km を走っていただきます。リレーには新たに親子の部を設けました。最低 1 人小学生のお子さんに入っていただきます。



↑ 昨年の Trail Jamboree in 甫喜ヶ峰の様子

コースは全て、公園の上の方だけを使用するものに変更しましたので、ご注意ください。

小学生の部は、例年通りで、昨年から始めた未就学児のお子さんのコースは、今年もおにぎりやお菓子を集めて帰ってきてもらいます。

詳細については、ホームページをご覧ください。

エントリー受付中ですので、ぜひご参加ください。

イベント情報

甫喜ヶ峰フェスティバル 2023

日 時：11月12日（日）

時 間：10時～14時（小雨決行）

対 象：どなたでも

参加費：各ブースにてお支払いください。

定 員：なし

但し、ブースによっては受付人数に限りがある場合があります。ご了承ください。

mini Trail Jamboree in 甫喜ヶ峰 2023

日 時 対	12月3日（日） 8:30～受付開始 6km：リレー（18歳以上） （但し保護者の許可があれば可能です。 またリレーの親子の部は最低一人小学生を入れてください） キッズ A-1：小学1年生～3年生 キッズ A-2：小学4年生～5年生 キッズ B：未就学児
参加費	6km：3,000 円 リレー：3,000 円（1 チーム） キッズ A-1・2：1,500 円 キッズ B：1,000 円
定 員	6km：120 名 リレー：男子・女子・混合・親子 （各 4 チーム） キッズ A-1・2・B：各 30 名



12月3日 sun

場 所： 甫喜ヶ峰森林公園（香川県高松市山田町平山）
受 付： 8:30～（リレー、キッズはコース開始に随時受付できます）
スタート時間 9:45～ 約 6 km
11:30～ キッズ A-1（小学1～3年生）（約 1 km）
11:50～ キッズ A-2（小学4～5年生）（約 1 km）
12:10～ キッズ B（未就学児）（約 200m）
12:45～ リレー（約 2 km×3 人）

申込期間： 9月1日（金）16:00～11月12日（日）（定員になり次第締め切り）

申込方法： <https://japanreg.com>

JapanReg のサイトからエントリーしてください

※詳細は会場をご覧ください



〈申し込み・お問い合わせ〉

県立甫喜ヶ峰森林公園

TEL:0887-57-9007

動 向

令和6年度林野庁公共事業予算概算要求

令和6年度の林野庁公共事業予算概算要求額は、一般公共事業費で224,604百万円（対前年度比119.8%）となった。治山事業費は、豪雨や地震等に起因する山地災害から国民の生命・財産を守るため、流木対策や機能強化対策の充実など、多様化する災害に対応した治山対策を図るとともに、流域治水との連携拡大や生態系を活用した防災・減災等の強化により、国土強靱化に向けた取り組みを推進するとして74,602百万円（対前年度比119.8%）となった。森林整備事業費は、花粉発生源対策としてスギ人工林の伐採・植替え等を推進するとともに、森林吸収源の機能強化・国土強靱化に向けて、間伐・主伐後の再造林、幹線となる林道の開設・改良等を着実に推進するとして150,002百万円（対前年度比119.8%）となっている。

（一社）高知県山林協会通常総会開催

山林協会は、令和5年度通常総会を8月25日ザ クラウンパレス新阪急高知で開催した。

任期満了に伴う役員改選では、田島史一常務理事が退任され、新しく山崎 出馬路村長（前監事）と本協会永野俊彦総務部長が理事に、中尾博憲四万十町長が監事にそれぞれ就任され、その他の理事・監事の方々は再任された。（総会の詳細は本文参照）

総会終了後開催された理事会で、池田三男津野町長が会長理事として、また和田守也土佐町長が副会長理事に、二宮栄一理事が副会長兼専務理事に、永野俊彦理事が常務理事に就任された。（別表参照）

本協会の令和5年度通常総会が会員の皆様のご理解、ご協力により無事終わることができましたことに、紙面をお借りしまして厚くお礼を申し上げます。

（別表）

（一社）高知県山林協会役員名簿 令和5年8月25日

会 長 理 事	池田 三男	津野町長
副 会 長 理 事	和田 守也	土佐町長
副 会 長 兼 専 務 理 事	二宮 栄一	正会員以外
常 務 理 事	永野 俊彦	正会員以外
理 事	上村 誠	北川村長
理 事	山崎 出	馬路村長
理 事	依光晃一郎	香美市長
理 事	小田 保行	越知町長
理 事	森山 真二	梼原町森林組合長
理 事	中平 正宏	四万十市長
理 事	岡田 順一	大月町長
監 事	池田 牧子	いの町長
監 事	中尾 博憲	四万十町長

表 紙 写 真

撮影場所 甫喜ヶ峰森林公園
【甫喜ヶ峰フェスティバル2022】

日 程

10月15日	障害のある子ども達と家族の～秋の森を楽しもう～（甫喜ヶ峰森林公園）
10月23日	高知県再造林推進会議（高知会館）
10月28・29日	もくもくエコランド2023 ー第6回森林環境学習フェアー（高知市）
11月5日	第24回治山・林道・体験ツアー（津野町・梼原町）
11月12日	甫喜ヶ峰フェスティバル2023（甫喜ヶ峰森林公園）
11月22日	日本林道協会総会2023（東京都）
11月22日	2023 治山・林道のつどい、治山林道工事等コンクール表彰式（東京都）
12月中旬	林野公共事業推進本部設置（東京都）

森のテクノ〈No. 101〉2023年10月15日発行

発行 一般社団法人高知県山林協会

〒780-0046 高知市伊勢崎町8番24号 TEL 088-822-5331 FAX 088-875-7191
<http://www.kochi-sanrin.jp/>